

**【速報！】弥生時代の大型掘立柱建物跡など主要遺構は保存へ**

**柏崎市西岩野遺跡は県道工事の計画変更で決着！**

柏崎市山本において県道の改良工事にと  
もなう事前調査で確認された柏崎市西岩野  
遺跡について、文新協はこれまで、その歴  
史的重要性と保存の必要性を訴えてきまし  
た。そしてこのたび、県や市の教育委員会  
から「道路工事の計画を変更することで決  
着した。遺構はほぼ完全な形で未来へ残せ  
る。」との説明があり、貴重な遺構の大部分  
が保存されることが明らかになりました。



本会主催西岩野遺跡見学会の様子（2018年10月8日）

写真左下を県道が通っています。

そもそもこの遺跡の重要性は、2017年11  
月1日の柏崎市長の記者会見によって初めて  
明らかになりました。新聞報道によってそ

れを知った市民は、11月3日の現地説明会という唯一の機会によって遺跡を見学することができた  
のです。すでにお知らせしてきたように、この年の発掘調査区からは弥生時代の大型掘立柱建物1  
棟をはじめ、集落を区画する「環濠」とみられる濠の一部、弥生時代から古墳時代にかけての方形  
周溝墓4基、土壇墓6基、古墳時代の円形周溝状の遺構（古墳の可能性がありますが）などが密集して  
見つかりました。特に大型掘立柱建物は弥生時代のものとしては新潟県内で初めての発見であり、  
独立棟持柱を持つ可能性が指摘されていました。方形周溝墓の1つからはヒスイの勾玉、緑色凝灰  
岩の管玉、ガラス小玉など豊かな副葬品が出土し、これも注目を集めました。

文新協はこの遺跡の重要性に鑑み、ただちに対応を検討。11月8日付で、柏崎市長、柏崎市教育  
委員会教育長、新潟県知事、新潟県教育委員会教育長、新潟県土木部長に「柏崎市西岩野遺跡に関  
する緊急要望書」を提出し、その保存と活用を要望しました。また、遺跡の重要性をたくさんの市  
民と共有しようと、11月23日に緊急講演会「卑弥呼の時代の巫女がいた!?!—柏崎市西岩野遺跡—」

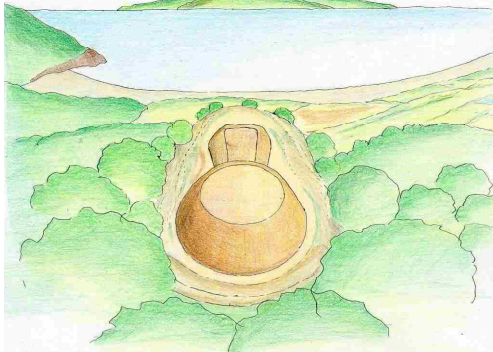
（柏崎市産業文化会館にて）を開催しました。2週間という短い準備期間、十分とはいえない宣伝  
の中、会場には約130名の市民が参加し、熱心に報告と講演に耳を傾けました。その後、2度の講  
演会（新潟市、柏崎市）、現地柏崎市での遺跡講座、市教育委員会の特別な計らいによる現地見学  
会などを開催し、遺跡の重要性を市民の方々と共有してきました。「柏崎市西岩野遺跡の保存に関  
する要望書」と題する市長あての署名にも取り組み、地元市民はもちろん全国から保存を求める声  
が寄せられました。地元紙には市民による「西岩野遺跡を保存できないか」という投書も掲載され  
ています。こうした声を背景に、文新協では県や市の教育委員会と粘り強い交渉を重ねてきました。  
幸い、いずれの担当者も遺跡の重要性を深く認識し、保存に向けて前向きに取り組んでいただい  
ている様子が伝わってきていました。そして今回の決着となったのです。

さる3月23日（月）、文新協事務局のメンバー3名（橋本博文会長、川上真紀子副会長、木村事務局長）は、県文化行政課と柏崎市教育委員会の担当者から説明を受けました。担当者は冒頭、「これまで道路改良と遺跡保存の両立を目指して協議を進めてきた。その結果、道路工事の計画変更で決着した。」と述べ、計画について説明しました。当初は緩斜面の切り通しによって道路幅を拡張する計画でしたが、その切り通しの斜面を急角度にすることで、重要な遺構のある現在の地形を可能な限り残そうという計画です。これにより、大型掘立柱建物跡、方形周溝墓、円形周溝状遺構など主要な遺構がそのままの形で残されることになります。残念なのは、計画変更後も現在の斜面を若干削る必要があり、調査区の東側の崖際から見つかった弥生時代の「環濠」とみられる遺構が失われてしまうということです。「環濠」はこの遺跡の性格を語る上で重要なパーツのひとつですが、工法上やむを得ない措置だということです。担当者は「2年半の協議で（県道工事を進める県土木部に）最大限努力してもらった結果だ。これで理解して欲しい。」と述べました。これによって、注目された遺構のほとんどは保存することが可能となりましたし、何よりも多くの人を感動させた素晴らしい眺望と遺跡が立地する地形を残すことができます。ここまでの遺跡保存に向けた関係者の努力に敬意を表したいと思います。

なお、県道工事に関わる遺跡の調査は今後3年間続くとのことです。道路法線上はしっかり確認調査をやっており、重要な遺構の発見は期待できないとのことですが、これからの発掘調査の状況も注視していきたいと思えます。これまで会員のみならず、地元柏崎市民の方々、そして全国の仲間たちから、たくさんのご支援・ご協力をいただきました。感謝申し上げます。また、今後の遺跡の保存と活用についても、ぜひご意見をいただきたいと思います。（事務局長 木村英祐）

## 新潟市西蒲区角田浜で新発見の前方後円墳について

橋本 博文



新発見の前方後円墳のイメージ  
正面は佐渡、左に角田岬を望む  
（小林隆幸さんによる）

このたびの新潟日報2020年4月5日付け朝刊に報じられた表題の前方後円墳について経緯を簡単に記しておく。

2019年9月8日、岡山県作陽短期大学音楽学科准教授、澤田秀実氏（文化財保存全国協議会常任委員）より新潟県内のわたしと文新協事務局長、木村英祐氏など3名に同時配信のメールが入った。それによれば、倉敷埋蔵文化財センターの藤原好二氏が国土地理院の傾斜量図を観察していたら、同区竹野町に在る菖蒲塚古墳の近くの角田山麓で前方後円形の起伏があることに気付いたという。それが前方後円墳か否かを現地を確認して欲しいと

のこと。そこで、早速現地に向かい、付近に在るといふ妙光寺に伺って院首の小川英爾氏に現地を案内していただいた。古墳は角田山の北西、日本海を望む角田浜に面した一支丘の上に立地し、沢伝いの急斜面を20分ほどかけて登った尾根筋に位置する。夏草を掻き分けた先に前方部の前端部が屹立し、明らかに人工的な地形であることを知った。上に登ると低平な前方部が続き、そこからさらに山側に一段高い後円部が認められた。頂部は径約18mの墳頂平坦面をもち、前期古墳の特徴を備えている。さらにその先には丘尾を切断するかのように山側に堀が切られており、典型的な前期古墳の造り方である。メジャーで略測すると、約50mある。そのようなことを澤田氏に返信し、そ

の後の対応をメールで伺ったところ、年明けの3月中に一度現地に来て5月の連休に測量を実施できればということになった。

その後、現地にいる橋本は新潟法務局で地番と土地所有者を確認し、調査の下準備を進めた。土地所有者には小川氏を介して調査の了解をいただいた。

そのような中で、第一発見者の藤原氏からの指示をまっていた。すると3月上旬、突然新潟県文化行政課から、『月刊文化財出土情報』誌上の新潟県内で新たに前方後円墳が見つかったという山陽新聞の記事を見たので、倉敷の藤原氏に問い合わせたら、詳細は橋本に聞いて欲しいという話になったという。そこで、新潟県庁で経緯を説明し、一方地元の新潟市歴史文化課にも同様な情報を入れた。そうこうしているうちに、今年は暖冬で新緑が早いことを悟り、測量の準備を進めて岡山の藤原氏、澤田氏の意向を伺っていたところ、調査には参加したいが、多忙なので現地の方で主体的に測量を開始して結構だという返事をいただいた。

しかし、技術的な問題で比高100m以上ある尾根上に座標を移動する必要性があった。そこで新潟大学農学部の村上拓彦准教授が精度の高いGPS測定装置を持っていることを知り、村上氏の協力のもと、計測機器をお借りして4月3日に現地を測定し、コンピューターで位置情報を解析していただいた。それによって、本格的な測量調査を翌4日から文化財保存新潟県協議会や新潟大学旭町学術資料展示館友の会の有志の協力のもとスタートさせることができた。

調査には土地所有者はもとより妙光寺様、地元自治会の全面的なバックアップがあって現在進行中である。また、地元紙『新潟日報』のマスコミが取り上げることになり、コロナ騒ぎの暗い世相の中で、明るい話題として地元では歓迎されている。しかし、確実に新潟にも新型コロナウイルスの感染が広まってきており、4月17日には全国に緊急事態宣言が発令され、活動は自粛せざるを得ない状況にいたっている。そんな中、岡山から自家用車で片道10時間、往復20時間掛けて実質1日の調査への参加ではあったが、澤田氏が駆けつけて測量の指導をしてくださった。心より御礼申し上げたい。今後、状況をみながら、断続的にでも作業が進行できればと願っている。そして、いつか関係者の中でこの問題についてシンポジウムが開催できる日の来ることを期待している。

## 「群馬の古墳と埴輪見学会!!」を開催しました!

### 秋の一日、本場の埴輪と古墳祭りを堪能しました!

2019年10月19日(土)、「群馬の古墳と埴輪見学会!! ~たくさんの埴輪と本場の古墳祭りを見に行こう!」を開催しました。参加者は大学生を含む21名。県境付近は土砂降り心配されましたが、現地では天気恵まれ見学地では晴れ間も見られました。午前中は、群馬県立歴史博物館で綿貫観音山古墳の等身大に近い実物の埴輪群像をはじめ、古墳時代の展示を中心に見学しました。午後は、かみつけの里博物館・保渡田古墳群(八幡塚古墳など)を見学。当日開催されていた古



綿貫観音山古墳のジオラマ(県立博物館)

墳祭りの様子も見学することができました。ご自身の出身地ということもあり、各見学地では橋本会長の懇切丁寧な説明が参加者を魅了。豊かな展示品の数々に、どこも時間が足りないほどでした。

----- 【参加者の感想】 -----

- 楽しかった。おもしろかった。勉強になった。つかれた。おどろいた。
- 装身具、馬具などの美しさ、精緻さに目を奪われつつ、当時の人々のレベルの高さ、生活に思いを馳せました。古墳、埴輪についての知識はありませんが、橋本先生の説明は簡潔で面白く拝聴しました。
- 雨天決行ということで心配しながら初参加させていただき、実際古墳・埴輪を目のあたりにして、古代の人のエネルギーとセンスに感激致しました。
- 王の儀式、これまでの研究者による調査・研究にもとずいたもので、バックに流す説明も大変よかった。
- 充実した1日でした。県立博物館は時間のない中、橋本先生が1つでもたくさん話してあげようとして下さっている様子が強く感じられ、忘れないようにと楽しい思い出と一緒に自分のおみやげとします。
- とても盛りだくさんな内容で、楽しかったです。私は群馬の出身ですが、保渡田古墳群には行ったことがなかったので、新しい発見がたくさんありました。古墳祭りでは、王の儀式の再現劇を見ましたが、当時の人々がどのような儀式を行っていたのかあれこれ想像しながら古代への思いをさせ、とても有意義な時間を過ごすことができました。
- 特に埴輪が好きと云うわけではないのですが、馬淵聖といえ「はにわだよね」という日版会の人たち（県内の）声ではにわを中心に展示しました。それがご縁で誘って頂き幸せでした。判らなかつたかざりや持ちものなどについても、お芝居の解説で、又、頭に入った感じがします。



かみつけの里2019古墳祭り「王の儀式」



本物の埴輪を堪能(かみつけの里博物館)



復元された人物・動物埴輪と八幡塚古墳

**編集後記**

新型コロナウイルスのため、不自由な毎日が続いています。文新協では多くの人が集まる講演会や見学会の開催を見合わせています。文全協でも6月に開催予定だった第51回大阪大会の1年延期が決まりました。今年度の活動については未定とせざるを得ません。ご理解をお願いします。そのような中ですが、今回の会報では2つの大きなニュースをお届けしました。西野岩遺跡についてはみなさまからたくさんのご支援をいただき、このような結果を導き出すことができました。感謝申し上げます。

この『会報』は文全協会員でなくても、文新協行事に参加された方には可能な限りお送りしています（ご参加なき場合は郵送を取りやめる場合があります）。名簿は本会からの連絡にのみ使用し、個人情報保護に留意し厳正に管理しています。会報送付がご迷惑な方は事務局までご一報下さい。

**文化財保存新潟県協議会**事務局（入会についてのお問い合わせも）

電話：090-2735-5536（木村）

E-mail：bun-sin-kyou@js8.so-net.ne.jp

ホームページ：http://www014.upp.so-net.ne.jp/bunsin-k/

文全協のホームページ  
もぜひご覧ください。